

# 平成30年度学校関係者評価書

学校名 和歌山市立東中学校

作成日 平成31年3月11日

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
本年度の重点目標	○地域や保護者に対しての学校情報の発信は極めて重要である。信頼関係を築き、強化する上で受け身になることなく、学校から積極的に動くことが必要である。	○あらゆる場において、中学生としての生き方を育てる取組が重要である。落ち着いた学校、希望に満ちた学校を目指し、生徒一人一人を大切にしたいきめ細やかな指導が必要である。	○中学校で身につけておかなければならない基礎的な学力の定着を図る必要がある。 ○知識・技能を活用し課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につける取組が重要である。
目標達成に向けた具体的目標	○地域住民対象の「学校だより」の回覧、保護者への「学年だより」、「保健だより」等の配布を行う。 ○保護者、生徒との信頼を築くために、積極的な家庭訪問等を行う。	○生徒一人一人の情報、状況を全職員が理解する。 ○道德の時間を充実しさらに、HR、教科授業等あらゆる機会を通して道德心をはぐくむ。	○学習規律の強化、行事の精選、授業時間数の確保、少人数指導等の指導方法の工夫改善を行う。 ○授業方法の工夫や、放課後補習等での基礎的内容の振り返り学習を行う。
取組の成果と課題	○「学校だより」は、学校の行事、様子等を地域の人々に伝えることができた。 ○小中連携では管理職、生徒指導、特別支援担当との情報交換を行えた。 ○長欠生数の減少を図るため、積極的に家庭訪問を行った。	○授業に対する取り組む姿勢に積極性が見られない生徒も見られる。 ○年間を通しての校門指導は、生徒自身が自分を見つめ直す機会となった。 ○道德教育の推進をさらに推し進める必要がある。	○2年数学科の少人数指導は、生徒たちにより緊張感を与えている。 ○夏期休業中の補習はもちろん、朝学や放課後補習の更なる充実や方法の工夫が必要である。 ○「学び合いの授業」への取組が始まった。
次年度に向けての改善方法	○更に学校をよく知ってもらうために「学校だより」の発行回数、内容の充実が望まれる。 ○小学校との連携は、方法の工夫や回数、人数を考えて充実した交流が望まれる。 ○授業参観、学校開放等で保護者や地域の人々が訪問しやすい工夫が必要である。	○挨拶運動の強化に取り組んでもらいたい。 ○外部講師の有効利用を更に進めてもらいたい。(キャリア教育の充実の観点からも) ○更なる道德の時間の充実が必要である。	○来年度も少人数指導は継続してもらいたい。 ○夏休みの補習、朝学、放課後補習など、基礎学力の充実に絞り込んだ取組が必要である。 ○「学び合いの授業」を全学年で取り組んでもらいたい。

## その他学校運営の改善に関する意見

- 全体として生徒たちは落ち着いた状況であったが、さらに、生徒たちが登校したいと思える学校となることを期待する。
- 学力面で課題を持つ生徒に対する対応が必要である。
- 校舎の老朽化もあるが、更に美しく豊かな環境を目指し、生徒、教師が共に学校の美化整備に取り組み、好ましい環境作りへの意識を持ってもらいたい。
- 「学び合いの授業」を更に進め、生徒の考える力の充実に取り組んでもらいたい。